

北アルプス（縦走&定着）

【報告・参加者】 T 寄

【日 時】 2019 年 7 月 21～29 日

《総括》

今山行の目的は、次の 3 点である。

- ①北アルプスで未だ歩いたことのない、黒部ダムから東一ノ越を経て一の越までをトレースすること
- ②久し振りにダイヤモンドコースを歩いて体力を確認すること
- ③小梨平を起点にロングのスピードハイクを楽しむこと

風邪による体調不良、悪天候、台風の影響により行程を短縮したが、あと数年は今のスタイルでテント泊山行を続けられる体力であることを確信した。

但し、カロリーメイトを中心にしている食糧計画の変更が必要であることを痛感した。

《報告》

【7月21日】 曇り

福岡⇒信濃大町⇒15:20 黒部ダム 15:30 → 16:10 ロッジくろよん CS

交通機関を順調に乗り継いで黒部ダムに到着。ガルベ乗船口の売店の肉まんを楽しみにしていたが売り切れであった。夕食を食べて、早々に就寝する。

【7月22日】 曇り後雨

CS 05:00 → 黒部平 05:45 → 東一ノ越 08:40 → 09:55 一の越 10:10 → 14:05 五色ヶ原山荘 CS



＜東一ノ越からの鬼岳と獅子岳＞

東一ノ越では初めて見る角度からの鬼岳・獅子岳等の眺望を堪能する。すぐ目の前に見える一の越山荘がなかなか近づかない。山荘の土間で今日初めての休憩をとる。夏休み期間中は小・中学校の雄山グループ登山が連日あり、本日も山荘前は大賑わいである。浄土山の登りから雨が降り出し、獅子岳辺りからは横殴りの雨となり、眼鏡の内側にも雨が入り、足元が見えにくい。五色ヶ原の這松帯&木道に入ったら、風が遮られて歩き易くなる。テン場は水溜りだらけで、トイレ近くの適地に幕営する。テン泊者なし。風邪薬を飲んで寝る。深夜まで大雨。

ロッジの横手から黒部平への登山道に入る。

古道の趣がある良い登山道を小一時間進むと黒部平である。

黒部平からはロープウェイの下を歩くことになるが、ロープウェイ稼働は8時半からで、まだ動いていない。

根曲がりのダケカンバ等がザックに引っ掛かり頗る歩き難い。雪渓が出てきたので、登山道から逃げて雪渓を歩く。調子こいて詰め上がっていたら、登山道と大きく離れてしまい、東一ノ越へ戻るのにアルバイトを強いられた。

東一ノ越では初めて見る角度からの鬼岳・獅子

【7月23日】 曇り時々雨

CS 04:00 → 06:30 越中沢岳 06:40 → 09:25 スゴ乗越小屋 09:45 → 薬師岳 14:30 → 15:10 薬師岳山荘 15:40 → 16:30 薬師峠 CS



<薬師岳山頂・後方は赤牛岳>



<ガスの晴れた薬師岳>

テント撤収時は雨が上がっており助かった。鳶山で夜が明けたが、立山・後立山が見事な朝焼けである。

案の定、一時間もしない越中沢乗越から雨が降り出す。雨の中のアップダウンは堪える。風邪を引いたようで熱はなさそうだが、ゼーゼー・ハーハーと呼吸が苦しい。普段の7割位しか肺に空気が入って来ない。

スゴ乗越小屋で大休止。無理にもカロリーメイトを食べようと努力するが、食欲がなく・喉を通らない。やっと一袋を水で流し込む。

間山で雨は上がったが、北薬師岳の登りと薬師岳までの吊尾根はハーハー・ゼーゼー・パクパクの非常に苦しい歩行であった。今迄の山行で一番苦しかったのではなからうかと思う。

薬師岳山荘の白玉あんみつを食べることが心の支えであった。念願の白玉あんみつでエネルギー補給が出来、テン場の薬師峠へ駆け下る。薬師岳山荘から少し下った所で、一瞬ガスが晴れて薬師岳の山頂部が顔を出した。

途中の薬師平の這松帯でオークリーの高級サングラスを拾いテント受付に届ける。

遅い時間にテン場に着いたが、テントの数はパラパラであった。リゾッタは全く食べる気がせず、

リフィル麺のどん兵衛を無理して食べるが、なかなか喉を通らない。結局、今日一日で食したのは、カロリーメイト2袋・白玉あんみつ・どん兵衛だけであった。風邪薬を飲んで寝る。夜半に雨。

【7月24日】 晴れ時々曇り

CS 04:00 → 06:00 北ノ俣岳 06:10 → 09:20 黒部五郎岳 09:40 → 11:20 黒部五郎小舎 12:00 → 14:30 三俣蓮華岳 14:40 → 16:20 双六 CS

いつもの山行では3日目位から羽が生えたように体が軽く絶好調になるが、何となく体が重い、今回はちょっと様子が違うようである。

でも朝一番は気持ちが良い、槍ヶ岳・黒部五郎岳・笠ヶ岳を一枚の写真に収めようと北ノ俣岳でしばし待つがガスで撮れず。待つ間にメイト一袋を特製プロテインジュースで流し込む。流石のダ



イヤモンドコース、心が伸びやかになる。昔の様に中俣乗越で幕営出来れば最高なんだがなー。赤木岳
辺りからゼーゼー・ハーハーが始まり、黒部五郎岳の登りでは何度立ち止まったものか、それでも足を
前に出していればさほど遅れることもなくガスの山頂に立つことが出来た。カールの水場の大きな岩の上で
中年夫婦が大スクリーンを見上げながら寛いでいた。学生時代に此処でもテン泊した記憶がある。数日
間居ても飽きそうもない場所である。顔を洗って、水を飲んで先へ進む。小舎の少し手前で上ってくる
単独者に道を開けたら丁寧なお礼の言葉が返ってきた、サングラスと帽子で不確かであるが、どうも京
大 IPS 研究所の山中教授のようであった。

黒部五郎小舎でラーメンを注文し大休憩を取る。三俣蓮華岳の登りでもゼーゼーと苦しむ。たった標高
差 500m 弱、一の鳥居から宝満山頂とほぼ同じなのにかかった時間は 2.5 倍、泣きたくなるくらいの牛
歩である。三俣蓮華からは稜線ルートを計画していたが、迷うことなく巻道ルートを選択する。

新穂高方面からの玄関口の双六 CS は賑やかである。今日も食欲がなくリフィル麺のチキンラーメンを
もどしそうになりながらも食する。明日は、笠ヶ岳のクリヤ谷経由で中尾高原 CS へ行く計画であつた
が、体力的に無理そうなので、鏡平経由で中尾高原 CS へ行くこととする。風邪薬がきれた。

【7月25日】 晴れ時々曇り

CS 05:50 → 鏡平 07:25 → 08:40 秩父小沢 09:00 → 10:00 わさび平 10:10 → 11:00 新穂高温泉 11:50
→ 中尾高原口 12:20 → 12:50 中尾高原 CS



<双六小屋と鷲羽岳>



<鏡池の逆さ檜>

自宅では朝食にプロテインジュース(プロテイン+果物+野菜)を飲んでいるが、今回の山行にプロテイン
にポカリスエット粉末を 4 : 1 で混ぜた特製プロテイン粉末を持参した。これを毎朝 500 ml のナルゲ
ンボトルにスプーン 10 杯を入れジュースにして携行している。食欲がなく、この特製プロテインジュ
ースに助けられた感がある。

双六 CS をゆっくりと出発して、秩父小沢とわさび平小屋で休憩し、新穂高温泉ロープウェイ駅へ。
駅でラーメンを食べ、コーヒーを飲みながら大休憩を取る。中尾高原口まで初めて歩いたが、洞門が長
く車が来るたびに端に立ち止まってやり過ごしていたが、新穂高温泉から 30 分で来れた。今後の山行
計画に使えるようである。

CAN 合掌の森キャンプ場の野天風呂で汗を流し、洗い物をして万国旗の様に日に干す。

半日行動で良い休養日になったが、風邪は抜けていないし、食欲はまだ戻らない。

夕食は新穂高温泉ロープウェイ駅で買った飛騨牛の串焼き 2 本とリフィル麺のシーフードヌードルであ
る。



<秀綱神社>

【7月26日】 曇り時々晴れ

CS 05:10 → 焼岳登山口 05:30 → 07:00 秀綱神社 07:10
→ 中尾峠 07:40 → 08:20 焼岳 08:40 → 焼岳小屋
09:25 → 焼岳登山口 11:00 → 11:45 小梨平 CS

焼岳登山口で高山市の66才の男性と一緒にになり、会話を交わしながら彼の後を歩く。

この登山道は、高山から中尾峠・徳本峠を越えて島々へ抜ける旧鎌倉街道であり、樺と山毛櫨と熊笹のしっとりとした私の好きな道の一つである。

白水の滝を遠望し、1800m辺りでついて行けず、先に行

ってもら。秀綱神社で小休止。この秀綱神社は、豊臣秀吉に従わず金森長近に攻め滅ぼされた、松倉城主の三木秀綱を祀った祠である。中尾峠にザックを置き、空荷で焼岳へ向かう。頂上の手前で彼に追いつくことが出来た。山頂でしばし穂高の眺望を期待して待つが、残念ながらガスが晴れなかった。大山神社にお礼参りをし、ウエストーン碑に挨拶をし、バスターミナルの山に祈る塔で山に散った方々の冥福を祈った。河童橋周辺の賑わいをやり過ごし、小梨平の適地にテントを設営し、食堂で温かい蕎麦をすすする。昨日、今日はさほど疲れることも無かったので、胃腸も徐々に回復しつつあるようである。

【7月27日】 曇り時々晴れ

今日は休養日。郵便局で局留め小包を受け取り、ビジターセンターの写真等を鑑賞したほかは、テントマットを外に敷き、その上で日がな一日「草枕」を読んで過ごした。α米・缶詰・ラーメン・フルグラ・ドライフルーツ・特製プロテイン・長ネギ・ウインズーン(マラソン用の補給食)等の食糧と着替えを郵送した。

【7月28日】 曇り後雨

台風接近で午後から悪天候が予想されるので、今日も休養日にあてる。風邪具合もだいぶ治ってきたようである。午後から夜半まで雨・風。

【7月29日】 曇り後雨後晴れ

CS 00:30 → 天狗原分岐 05:05 → 05:40 天狗池 06:00 → 稜線 07:10 → 中岳 07:50 → 08:40 槍ヶ岳山荘 09:00 → 12:35 横尾 12:45 → 13:25 徳沢ロッヂ 14:30 → 15:50 小梨平 CS



<天狗池>



<横尾尾根のコルからの上部>

前夜は雨が降っていたが、晴れの天気予報を信じて出発する。濃い霧が立ち込めており、晴天であることを期待する。ババ平を過ぎた辺りで夜が明けたが、2400～500m以上はガスの中である。20 数年振りに天狗原分岐で左折し槍沢を渡るが昔と変わった様子は無い。残雪に覆われた天狗池で大休止。カロリーメイトにトレイルバターを塗って無理やり2本を喉に押し込む。体調は戻ってきているがカロリーメイトは未だ受け付けない。フルグラは体が受け付け、ウインゾーンは即エネルギーになっている感があった。雨が降ってきたので雨具を着て、横尾尾根の岩稜帯を快調に登る。3パーティー7人が相次いで降りて来た。稜線に出たら大粒の冷たい雨と強風が吹きつける。大きな雪渓が残る中岳の登りと梯子を過ぎた所で韓国人のパーティー(双方ともに10名前後)とすれ違う。この天気だが彼らは元気である。大喰岳の登りで雷鳥に出会う。日本人登山者に会わないなあーと、ノンストップで槍ヶ岳山荘へ飛び込んだら、日本人でゴった返していた。小屋の外で20分程エネルギー補給と休憩を兼ねて天気待ちをするが、天気の回復が直ぐには見込めそうもないので、槍の穂先と東鎌尾根は諦めて、槍沢を下る。登って来る人々に道を譲りつつなので特に休憩を取ることもなく横尾までノンストップであった。待っているのを気にする様子もなく、二ノ俣、一ノ俣等の橋の上でポーズを取りながら写真を撮っている外国人には困りものであった。

徳沢ロッジの静かなラウンジで地元産のカボチャのロールケーキとホットコーヒーで寛ぐ。黒光りのするほど磨きもまれた柱や床、それにマッチした松本民芸家具を使った落ち着いたラウンジであり気に入って長居してしまった。明神穂高神社奥宮の日本アルプス遭難者慰霊塔に手を合わせる。

【7月30日】 曇り時々雨



<河童橋と岳沢>



<小梨平の川岸決壊場所の修復工事>

今日は霞沢岳を往復する計画であったが、天候が安定せず午後からは雨の予報なので取り止めて、今山行を終了する旨を山行部長と家内に連絡する。

7月30日は上高地温泉ホテルの湯に浸かった後、お茶と山岳画8人展を鑑賞する。栗田政裕の小口木版画には心が引かれるが20数万円では手が出ない。今回の彼の作品には数点色が入っている物があったが、白黒の方が精緻で山への憧憬と自然への畏怖が表れているように私は感じる。

7月31日は上高地アルペンホテルでランチとお茶をし上高地での避暑を満喫する。小梨平で2か月間避暑生活を過ごす方々が居られるが、私も数年後には仲間に加えてもらうことを願っている。

8月1日に帰福したが下界の暑いこと、暑いこと。秋の山行(白馬・朝日・蓮華の計画)が待ち遠しい。